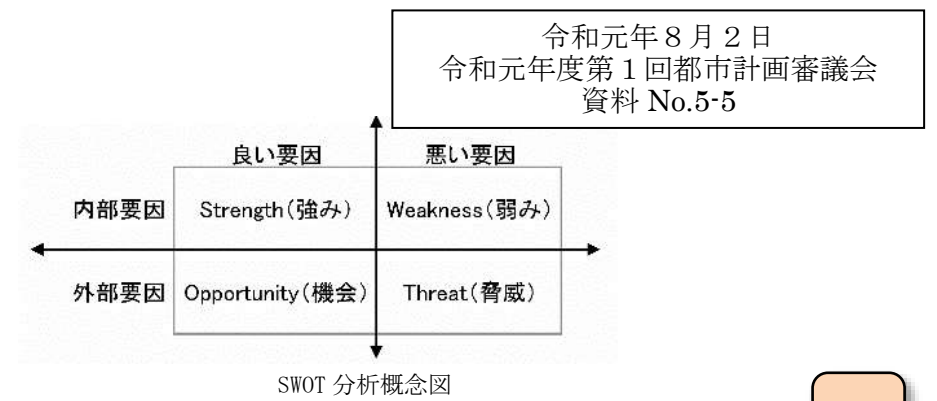


<日進市都市マスタープラン改定>現況把握・課題の整理まとめ

時代潮流から見たこれからの都市づくりの方向性（都市づくりの視点）を「SWOT分析※」における外的要因（機会(O)、脅威(T))とし、これら外的要因ごとに、現況把握結果より明らかとなった内的要因（日進市の強み(S)、弱み(W))を確認することで、今後の都市づくり上の課題を抽出・整理します。

※SWOT分析：企業の戦略立案を行う際に使われる主要な分析手法で、組織の外的環境に潜む機会（O=opportunities）、脅威（T=threats）を検討・考慮したうえで、組織が持つ強み（S=strengths）と弱み（W=weaknesses）を確認・評価すること



【現況把握】

【課題の整理】

都市構造	1. 「都市機能集積の高い都市づくり」の視点
	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昭和45年以降、本市の人口は90,620人、世帯数は36,707世帯とともに増加を続けています。 ○愛知県人口も2020年以降減少に転じることが予想されるなか、人口ビジョンにおいて本市の人口は当面増加し、2060年では110,764人と見込まれています。 ○総人口に占める市街化区域人口の割合は73.8%となっています。また、市街化区域の人口密度は、昭和50年の18.2人/haから、平成27年には59.4人/haへと増加し人口集積が進んでいます。 ○平成7年よりDIDが形成され、平成27年時にはDID人口密度は74.4人/haとなっており、DID基準の40人/haを大きく上回っています。 ○年間1,000人前後の出生数を維持しており、今後も年少人口数は概ね維持と見込まれています。 ○過去10年間の社会動態の平均をみると約580人/年程度、社会増となっており、子ども・子育て世代を中心に増加が続いています。 ○日常生活の利便や安心を支える都市機能は、医療・高齢者福祉・子育て支援施設は市街化区域内において概ね800m圏に分布しています。 ○都市構造の評価によると医療・福祉施設における徒歩圏人口カバー率は高い状況にあります。 ○市街化区域は概ね公共交通の徒歩圏域に属しています。 <p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が増加傾向にあり、高齢化が進行しています。 ○商業系用途地域における商業系土地利用の特化傾向は低く、特に日進駅、赤池駅の周辺における商業集積の低さがみられます。 ○市内大学の学生数が減少し、世帯数の減少がみられます。（空家・空き部屋の発生） ○平成22年から平成27年にかけて、名古屋市に隣接する香久山などの民営借家が多く立地する一角や日進駅、赤池駅周辺の比較的人口密度が高い地域において人口が減少しています。 ○市街化区域の住宅地において、低・未利用地が広く分布しています。
都市活力	2. 「力強く発展を続ける都市づくり」の視点
	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成7年では従業者数が9,668人、平成27年では12,485人と約2,000人増加しています。 ○自市内就業率は約36.1%であり、周辺都市との比較では高い割合となっています。 <p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○製造品出荷額、小売業の商品販売額は横ばいであり、工業、商業における伸び悩みがみられます。また、製造業、小売業の事業所数は減少傾向となっています。 ○都市構造の評価によると市街化区域内の従業人口密度が低い状況にあります。 ○本市の小売吸引力は愛知県を基準とした場合、平成26年では0.64と平成11年以降は1を大きく下回っています。 ○広域交通である東名高速道路、名古屋瀬戸道路の2路線があるものの、インターチェンジは設置されていません。 ○一人当たり製造品出荷額は、2,024万円/人であり、周辺都市との比較では低い値となっています。
	3. 「観光交流・市民交流を促す都市づくり」の視点
	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特殊公園（歴史公園）である岩崎城址公園が北部に整備されています。 ○教育施設は大学・短期大学が5件立地しています。 ○名古屋市や豊田市に近くアクセス利便性に優れるといった地理的優位性を有しており、H23・H26・H28市民意識調査のいずれにおいても最も良い印象の項目となっています。 ○近年赤池駅周辺において、新たに大型商業施設が立地しています。 <p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成21年の国の観光入込客統計に関する共通基準の策定後、集計対象となる観光地点が市内からなくなっています。

<p>強みを伸ばす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○増加する人口を受け止める新たな住居系市街地の形成 ○市街化区域に広く分布する都市機能（日常生活利便施設）の維持・充実 ○子育て支援ニーズを受け止める施設の維持・充実
<p>弱みに対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢化の進行等を踏まえ、主要鉄道駅をはじめ公共交通によりアクセスしやすい地区における居住や商業をはじめとした都市機能の集積強化 ○これまでの社会増（転入増）の維持に向け、学生向け住居への入居促進 ○市街化区域に多く残る低・未利用地の有効活用 ○空家や低・未利用地の有効活用及び魅力向上
<p>強みを伸ばす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さらなる従業者の増加に向けた雇用の場の確保、既存産業の拠点強化・充実
<p>弱みに対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の産業立地の受け皿となる新たな産業用地の形成 ○卒業後の学生等の雇用の場の確保とあわせた居住の場の充実 ○広域交通体系へのアクセス利便性の確保（IC等設置）
<p>強みを伸ばす・弱みに対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内に大学が多いなど本市ならではの既存ストックや地域資源を活かした交流の拡大
<p>弱みに対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たに立地した大型商業施設を活かした市民交流の場の創出 ○地域資源を有効に使い、地域内外から人を呼び込む場の創出

【基本理念案・都市づくりの目標案】
現在検討中

都市生活	4. 「安心して暮らせる都市づくり」の視点	
	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の利便や安心を支える都市機能は、医療・高齢者福祉・子育て支援施設は市街化区域内において概ね800m圏に分布しています。 ○市内の広い範囲で「くるりんばす」が運行し、年間利用者数は県内上位となっています。 ○市内の鉄道に対する踏切がありません。 ○公共バスの再編により、くるりんばすから名鉄バスや鉄道への利用者の転換が見られます。 ○市街化区域は概ね公共交通の徒歩圏域に属しています。
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が増加傾向にあり、高齢化が進行しています。 ○市街化区域内の既成市街地や市街化調整区域に点在する集落において老年人口比率が高くなっています。 ○H28 市民意識調査において、交通の便に関する印象や満足度が最も悪い項目となっています。 ○市街化区域内では、都市公園の徒歩圏外となる利用が不便な地区があります。 ○市内3駅の鉄道の年間乗降客数においては、地下鉄赤池駅への集中が見られます。
都市生活	5. 「災害等に対し安全に暮らせる都市づくり」の視点	
	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水想定区域が天白川付近に限られているほか、地震時に津波が想定されず、被害対応が限定され、別の事案に対応することができます。 ○自主防災組織が市内38団体あり、充実しています。
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○工業系用途地域である浅田地区等では住宅と工場の混在がみられます。 ○狭あい道路は市街化調整区域では集落地や河川沿い、市街化区域内では既成市街地を中心に多く分布しています。 ○面整備が実施されていない既成市街地では都市公園の分布がみられません。 ○既成市街地や旧住宅地造成事業法により形成された団地において、木造の老朽建物が多く分布しています。 ○河川沿いの一部の地域において、100年確率の豪雨時に2mを超える河川の浸水が想定されているほか、市街化区域内に一部土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域の指定がみられます。
都市環境	6. 「都市の個性を発揮する景観都市づくり」の視点	
	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○本市を東西に貫く河川の周辺には一団のまとまりのある農用区域が広がっているほか、河川環境を保全する緑が連続しており、市民意識調査の印象や満足度が高い項目となっています。 ○特殊公園（歴史公園）である岩崎城址公園が北部に整備されています。 ○東部丘陵、御嶽山や北高上緑地を始め、まとまった緑地が残り、都市化が進展する中恵まれた自然環境があり、公有化による保全の取組みも進んでいます。 ○市北部及び東部の森林や広がりのある農地に囲まれた自然が豊かな居住環境にあります。
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○景観資源でもある農地や森林が減少しており、H23・H25・H28 市民意識調査の悪い印象の2位となっています。 ○工業系用途地域である浅田地区等では住宅と工場の混在がみられます。
都市環境	7. 「環境負荷の小さい都市づくり」の視点	
	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○本市を東西に貫く河川の周辺には一団のまとまりのある農用区域が広がっているほか、河川環境を保全する緑が連続しており、市民意識調査の印象や満足度が高い項目となっています。 ○東部丘陵、御嶽山や北高上緑地を始め、まとまった緑地が残り、都市化が進展する中恵まれた自然環境があり、公有化による保全の取組みも進んでいます。 ○市内の広い範囲で「くるりんばす」が運行し、年間利用者数は県内上位となっています。 ○エコドームの開設や分別等の推進によりリサイクル率が高く、市民意識調査の満足度の3位となっています。
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○日進駅、米野木駅の利用者の約7割から8割は、自転車もしくは徒歩を駅端末交通手段としていますが、赤池駅では約6割となっています。 ○H28 市民意識調査において、交通の便に関する印象や満足度が最も悪い項目となっています。 ○景観資源でもある農地や森林が減少しており、H23・H25・H28 市民意識調査の悪い印象の2位となっています。 ○下水道普及率が県平均は75%に対し、日進市は74%と若干下回っています。
都市運営	8. 「都市運営コスト削減の都市づくり」の視点	
	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○平成25年以降市街化区域の路線価は概ね上昇傾向にあります。
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○平成24年以降、本市の財政力指数は横ばいであり平成26年時点で0.99となっています。 ○平成30年から平成42年にかけて、公共施設や下水道の修繕等に係る費用が増加し、充て可能な財源の見込みを超える費用が想定されています。 ○(都)野方三ツ池公園線などの一部都市計画道路において未整備区間があり、今後もインフラ施設の整備費用が必要となる見込みとなっています。

強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な生活の支えとなるバランスよく立地した生活利便施設の維持・充実
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化の進行する既成市街地や集落における地域コミュニティの維持・活性化（日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、交流・地域活動を促進する場の形成等） ○進行する高齢化社会に対応した鉄道駅へのアクセスを含め、日常生活を支える広域的視点も踏まえた都市交通機能の充実 ○都市公園等が不足する地区の解消
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○地震等の災害時におけるさらなる減災対策 ○防災・減災について想定される事案への事前準備や対応訓練の実施 ○若者世代や転入者等への防災意識や共助力の向上
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○浅田地区等における住工混在地区の解消 ○既成市街地に残る未整備市街地や狭あい道路の改善、低・未利用地の活用等による都市の防災性の強化 ○浸水、土砂等の危険性の高い区域における防災、減災対策の実施及び新たな開発抑制
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○景観資源として農地や山林の有効活用 ○東部丘陵等のまとまった緑地の市民に開かれた活用・保全
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○市街化区域を取り巻く農地や山林の保全 ○浅田地区等における住工混在地区の解消〔再掲〕
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○市街化区域を囲んだ豊かな水辺環境、自然環境の保全 ○河川を活かした水と緑のネットワークの形成 ○景観資源として農地や山林の有効活用〔再掲〕 ○東部丘陵等のまとまった緑地の市民に開かれた活用・保全〔再掲〕
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○適度に自動車に依存しなくても暮らしやすい都市構造や生活圏への再構築 ○CO2 排出量の抑制といった環境負荷低減の観点からも利便性の高い都市交通機能の維持・形成
強みを伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ○空家や低・未利用地の有効活用等による土地の価値の向上
弱みに対応する	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽化するインフラ施設に対する効率的な修繕・更新の実施、長寿命化による更新コストの削減 ○インフラ施設の維持管理に対する住民や民間事業者等の協働化の促進

【基本理念案・都市づくりの目標案】 現在検討中